

[dō:k]

DONC どんく

発行

三重日仏協会

SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

事務局 津市東丸之内21-4 オーデンビル

3F / Siege : Oden Building 21-4 Higashi-

Marnouchi Tsu JAPON ☎0592 (26) 3159

N° 009 le 25 juin 1989 SOCIÉTÉ FRANCO-JAPONAISE DE MIE

le 14 Juillet ・パリ祭を盛大に

BICENTENAIRE / フランス革命200年記念事業N°2

ことしの<le 14 Juillet>いわゆるパリ祭の催しを、二日後の日曜日で開催します。とくにことしはフランス革命200周年ということで、意義あるものにしたいと、スタッフは張り切って計画中です。ぜひご出席ください。

準備の都合上、同封のハガキで、出欠を7月5日までにお知らせください。

いろいろの趣向 パリみやげを賞品に

現在のところ、フランス人ゲストのスピーチのほか、恒例のワイン利き酒（今回は赤）、「クイズ・フランス革命」などを予定しており、賞品としては『200周年グッズ』（写真のTシャツなど、最近訪仏した豊田夫人のお土産）が用意されています。

食事も、普通の料理のほか、ドミニク・ドゥーセ氏の焼いたパン、フランスワインを召し上がっていただく予定。

7月16日(日)午後4:30
~6:30

洞津会館(津新町駅西1分)

会費 5000円



Heureuse nouvelle! 大阪・神戸フランス総領事館より、私たちの「パリ祭」を祝ってワインの寄贈がありました。お楽しみに。

本会会員の豊田元子さんは、さる五月、アリアンス・フランセーズ名古屋の友人たちと、フランス大革命200周年の記念事業に湧くパリを訪問されました。帰国早々、〈どんく〉に一文をお寄せいただくようお願いしました。

次号と2回にわたって掲載させていただきます。



パリ 五月 1989 (1)

豊田元子 (四日市市在住)

革命200周年のパリは7月14日に向かって、いたるところで道路工事がおこなわれ、外装修復中のビルは高い足場やビニールテント、綱などで覆われている。観光客がよく足を運ぶシャネルの店も、一部改造のため工事中。いまパリの街は粉塵が舞い上がり、車の洪水。

信号は何のためにあるのかわからない。

四つ角は車のおだんごができ、そのわずかの隙間を、長いパンを小脇にかかえたパリジャンが行き来する。道路の両側にはベコンベコンの車が縦列駐車している。車と車をぶつけて駐車するらしい。日本のような大きなきれいな車はあまり見かけない。パリの警察は、違反が多すぎて取り締まれないので、日本の点数制度を取り入れたとか聞く。

エッフェル塔へ

私たちが落ち着いたホテルは、Rond-

Point de Longchampといい、100ANSとイルミネーションでメイクアップされたエッフェル塔のそばにあった。

夜9時だというのに、まだあたりはうす明るい。早々にホテルの部屋にこもる気にもなれず、トロカデロ広場を通り、セーヌ河を渡ってエッフェル塔まで散歩した。これがパリでいちばん不粋な建造物だと、百年前の建築当時に非難を浴びたエッフェル塔かと、その足下から仰いで見た。どうしてどうして、日本観光客など吸い込まれそうになるほど、雄大で迫力のある怪物のような建物だ。

たくさんの車が塔の下を往来し、大勢のパリっ子や外人たちがたむろする、親しみぶかい名所なのだ。ホテルに帰って窓から眺めるエッフェル塔は、また別の味わいがある。それはあたかも、オレンジ色の裾広がりのドレスを着こなした婦人の優雅さを思わせる。いまや中世の薄



暗い建物とよくマッチし、四六時中パリに躍動感を与えている塔だ。

その翌日

しかし一方、美の殿堂ルーブル美術館の中庭、ナポレオン広場にこんど新しく出現したクリスタル・ピラミッドは、石造りの宮殿とのコントラストが強すぎて違和感を持たざるを得なかった。これはモダンアートを理解できない私の感性の古さと、偏見なのだろうか。

この違和感も、エッフェル塔と同じように、<時>が人々の見る眼を変えて行くのだろう。

今回は美術館の中に入らず、大勢の見物客の人垣をわけ、シャンゼリゼ通りを西へ歩いて、エトワールに出た。5年前初めて凱旋門を見たときは、もっぱら歴史の重みを感じ、すばらしい遺産として鑑賞したが、今回は、きれいに洗われ磨かれて、新しい装いになり、トリコロールの国旗を翻らせていた。

一月帰仏のドゥーセ夫人から

協会あてに手紙

ノルマンディから子どもたちとともにボンジュールのご挨拶を送ります。

私たちは再びフランスの生活に慣れようとしています。子どもたちも学校に戻りました。ブランディーヌだけは最初ちょっと困りましたが、今ではもう大丈夫です。

日本滞在中みなさまから受けたご親切に心から感謝しています。

日仏協会のメンバーの方々を、こちらでお迎えすることを楽しみにしています。

Sincerely Amelies Mc Douce

夫のドミニクさんが講師に

今年度1回目の料理講座

ドゥーセ夫人の帰仏でフランス料理講座の講師が代わりました。鈴鹿サーキットの<グランプリ>のシェフ、ドミニク・ドゥーセさんが、引き受けてくださり、去る5月28日、最初の講座が開かれました。この日は、Coquille de poisson/ sauce suprêmeと、お得意の菓子でTarte aux fruitsの2品。約30人が参加、バターと粉にまみれてがんばっていました。

陰里氏が記念講演 本年度・定期総会

三重日仏協会1989年度総会は、4月29日開催され、議案を原案通り決議しましたが、総会に先立ち記念講演会を一般公開で開催しました。

講師は本会理事・三重県立美術館館長の陰里鉄郎氏で、テーマは『フランス革命と絵画』。会場の美術館講堂ほぼ満員の聴衆を前に陰里氏は「フランス革命の時代」18世紀後半から19世紀にかけてのフランスを中心とした絵画の潮流と変遷について、ダビッド、グロ、ジュリコ、ドラクロアなどのたくさんのスライドを用いながら、わかりやすく講演され、大きな感銘を与えました。

1990年度

フランス政府給費留学生募集

1990~1991大学年度(10月~6月)のフランス政府給費留学生の募集要項がフランス大使館より協会事務局に届いております。

願書受付は8月1日から18日まで、審査は9月から11月の間となっております。

分野は、文学、人文、社会科学、自然科学、医学、農学、工学、海洋学、建築と都市工学、芸術。

詳細を知りたい方は、事務局・井土 ☎0592-26-2766まで。

仏文ガイド「MIE JAPON」その後

88年度事業報告でお知らせしましたように「ポーラ・ことしの夢'89」の奨励金で、2年がかりの仏文ガイド発行の夢はやっと実現しそうです。256倍の競争率の中から選ばれた夢に自信を深めて、今スタッフが手分けして作業を進めています。

ポーラには夢の進行状況を毎月レポートしなければならないし、フランス語の先生からはガイドの原稿を何度も厳しく直されるし、いろいろと大変です。発行については既に県観光国際課の了解も得、印刷の見積りもとりました。B5版、白黒写真で約30万円。奨励金だけでは十分ではありませんが、できる限り良いものを作って三重県紹介に役立てたいと考えています。フランスへのお土産としても使っていただけそうです。完成までにはまだしばらく時間がかかりそうですが、パリ祭には何とか間に合わせたいと頑張っています。

出来上がったガイドブックをお分けする時に、もしかすると若干のカンパをお願いすることになるかもしれません。そのときはどうぞよろしくお願い致します。

年会費納入お早目に

今年度会費未納の方には、新しい会員名簿をお送りした際、振り込み用紙を同封いたしました。普通会员3000円、学生会員2000円を早目にお振り込みください。